



会友会
所隊友
法人隊
行法隊
益社団
公益団
岐益岐
後益岐
後益岐



第10代岐阜県隊友会
会長 後藤 忠司

岐阜県隊友会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。また、御家族の皆様とも清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

ところで、我が国を取り巻く安全保障環境は、特に中国の動向にみられるように益々予断を許さない状況となりつつあります。幸い今年は国家防衛戦略等の安保三文書の改訂が行われ、国内外に日本の安全保障に対する国家の強い意志と明確な戦略目的・目標が示されることが期待でき、その為には何よりも国民一人一人の国防意識を向上させることが必要であり、ここにこそ「国民と自衛隊の懸橋」となる公益法人隊友会の果たすべき役割が存在するとの思いで、会員皆様と共に前向きに活動していく所存ですので、皆様の変わらぬご協力の程宜しくお願い致します。



航空自衛隊
岐阜基地司令
空将補 富岡 憲充

岐阜県隊友会の皆様、あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、航空自衛隊岐阜基地に對しまして格別なるご厚情を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

隊員一人一人がやりがいを持ち職務に向き合い、幸せを感じるためには、関係者の方々をはじめとする皆様の理解と我々への共感が欠かせません。私も、皆様から愛される開かれた基地を目指し、未来に向けて努力を重ねてまいりたいと思います。

結びに、岐阜県隊友会の益々のご発展と後藤会長をはじめとします会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



陸上自衛隊
第35普通科連隊長
1等陸佐 坂本 克好

岐阜県隊友会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、第三十五普通科連隊に對し、格別なるご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

我々第三十五連隊は、岐阜県の災害派遣を担当する部隊として、即応態勢の維持に努めるとともに、各種事態における任務遂行能力の向上のため、年間を通じて各種訓練を行ってまいりました。国民の皆様との平和を守るため、今年も引き続き練度の維持向上を図っていく所存です。

一方、昨今の募集状況を鑑みると、少子化や厳しい任務などの組織イメージの影響もあり、毎年自衛隊への入隊者数が減少し、部隊の隊務運営に影響を及ぼしつつあります。このため、当連隊としましては、引き続き入隊した隊員に寄り添い、成長を促し、国民の皆様への負託に応え得る隊員を育成していきたいと考えております。

本年も、岐阜県隊友会並びに会員の皆様にとって良い一年になることを、ご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



自衛隊
岐阜地方協力本部長
1等空佐 川口 裕史

岐阜県隊友会の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素から自衛隊岐阜地方協力本部の様々な活動に当たり、皆様のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、国際社会は戦後最大の試練のときを迎えており、わが国を取り巻く安全保障環境も、戦後最も厳しく複雑なものとなっています。私たちは、防衛力の抜本的強化を着実に実現する必要がある、なかでも自衛隊の処遇や勤務環境の改善、採用、援護などの生涯設計の確立といった「人的基盤の強化」に継続して努めています。

自衛隊岐阜地方協力本部についても新しい時代の流れに適応しつつ、地域に寄り添い、志のある多くの方々の「自衛隊で働き、社会に貢献し、自分の夢を実現したい」という思いに對するサポートをしつかりと行っていきたいと思っております。

結びに、岐阜県隊友会の皆様の益々のご発展とご多幸を心からお祈り申し上げます。本年もこれまでと変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



岐阜県自衛隊家族会
会長 田辺 敦啓

新年あけましておめでとうございます。旧年中は岐阜県自衛隊家族会の活動に對し、格別の御理解と御協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

昨年は、元陸上総隊司令官・高田克樹氏の防衛講話に多くの皆様にご参加くださり、地域の安全保障を自らの課題として共有できた貴重な機会となりました。改めて深く感謝申し上げます。

私たち家族会は、第一線で国防に従事する隊員とそのご家族を支える「応援団」であります。国際情勢が一層流動化する中であつても、地域社会が隊員の士気を高め、安心して任務に臨める環境づくりこそ、私たちの大切な役割と考えております。

本年も、会員相互の連携をより強め、温かい支援の輪が県内すみずみまで広がるよう、力を尽くしてまいります。岐阜県隊友会の益々のご盛会と会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



新聞「叙勲」（日本叙勲者協会発行）から県隊友会各務原支部 安東俊之（あんどう・としゆき）氏へ取材・原稿投稿の依頼があり「叙勲新聞」2023R7.11.15紅葉号に同氏紹介記事が掲載されました旨の連絡がありましたので同記事を編集しましてご紹介します。（和合記）

「航空自衛隊の基盤固めに貢献

ハーモニカが生涯の友」

「瑞宝小綬章（防衛功労）平成17年4月受章

元航空自衛隊保安管制気象団司令官 安東俊之

私は昭和9年3月福岡県門司市（現北九州市門司区）生まれ、同市は北九州工業地域のため幾たびかの空襲に見舞われ我が家は家屋疎開で県内田川市近郊に疎開し終戦後は父の郷里の大分市へ引越し県立大分中学校（旧制）入学、幾多の学制改革を経て大分上野丘高等学校卒業、千葉工業大学工学部機械科へ進学大学卒業は東京大学生産技術研究所で「自動車の振動・騒音研究」ゼミナールに通い専門知識の習得に努め卒業論文は「車両振動」のテーマで提出、卒業後は昭和29年防衛庁資料からジェット機操縦者の育成計画を見て発足3年目の航空自衛隊に入隊しました。戦闘機操縦など幅広い航空機関連の任務に就き「お国の為に尽くそう」と新たな決意をもって飛び込みました。先ずは空自の操縦士資格を松島で取得、検定機種はT-6（テキサン）、後に米空軍のT-28（ビッグバード）その後全天候戦闘機操縦者の養成課程検定機種はF-86L当時としては最新のレー

ダー、データーリンクを搭載した実戦戦闘機でした。

帰国後北海道千歳基地ではF-101の導入に伴い機種改編し飛行隊長を拝命し24時間の警戒監視任務に就きました。

その後団安全班長等を歴任し米空軍の支援を受けながらではありませんが航空自衛隊の使命に沿った体制整備が進展していくのを感じました。

この時代ならではの夢と希望を背景に「何でも挑戦してやろう。一刻も早く世界に誇れる組織になれるよう貢献しよう」と自らを奮い立たせる日々の連続でした。

最後の任務地は飛行開発実験団（岐阜基地）で当時は早期実用化を官民挙げての一大プロジェクト無人機の開発に携わり定年退職後もプロジェクトメンバーとして実用・運用試験を硫黄島で実施し成功を収めました。

次のステージに移行の段階で勤続疲労



安東1空佐 最終フライト記念(平成元年3月7日)

が高じて体が悲鳴をあげ平成7年に退職、療養生活に入り病床にあった私を支えてくれたのが

国民学校初等科5年の夏休みにその美しい音色に魅了されたハーモニカでした。療養の身にあつてややもすると暗くなりがちな気持ちを奮い立たせてくれました。そして療養生活を終えハーモニカ演奏を基本から学び



平成17年春 瑞宝小綬章記念 妻弘子と共に

直し演奏技法を習得後は愛好サークル「ハーモニカはまなすグリーンヒルズ」を結成し福祉施設を訪問し情感あふれる童謡唱歌や懐かしい流行歌などを披露しています。歳を重ねた現在でも常に目の届くところにハーモニカを置き気が向くと懐かしい楽曲を演奏しております。卒寿を過ぎた今、生きがいとも言えるハーモニカ演奏を楽しむことで健康を維持していくことが出来ればこの上ない喜びです。我が亡き妻弘子、まさに「良妻賢母」として「子育てなど自分の人生すべて」を私に捧げてくれた弘子。ハーモニカのメロディーにはそつと歌を口ずさんでおりましたつけ。私は今日も感謝の気持ちを含め「ハーモニカのメロディー」を天国の弘子に届けています。心を震わせながら・・・

